

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 乙第 2469 号

Relation between histological prostatitis and lower urinary tract symptoms and erectile function

病理組織学的な前立腺炎症所見と下部尿路閉塞症状および性機能の関連性についての検討

水野 太起 (みずの たいき)

博士 (医学)

論文審査結果の要旨

本論文は、病理組織学的な前立腺炎症所見と慢性前立腺炎症状、排尿症状および性機能症状の関連性について検討した臨床的に意義のある論文である。慢性前立腺炎は会陰部・骨盤部の疼痛・不快感、排尿時痛・排尿障害などの症状が持続することで QOL を悪化させるが、必ずしも前立腺内の炎症所見が確認されたわけなく、臨床の現場ではその症状から除外診断的に慢性前立腺炎とされていることが多い。近年、前立腺組織内の組織学的炎症反応に注目が高まっているが、これまでに前立腺組織の炎症所見と症状との関連性についてはさほど検討されてこなかった。本研究では、前立腺生検で得られた前立腺組織に対して抗 CD45 抗体を用いた免疫染色を施行し、病理組織学的検討を行い、その炎症反応の程度と各種質問票で評価された症状との関連性を明確にしている。すなわち、前立腺組織内の炎症所見は前立腺体積、排尿症状と慢性前立腺炎症状と相関を認めたものの、前立腺体積調整後の多変量解析では慢性前立腺炎症状を評価する、米国国立衛生研究所慢性前立腺症状スコア (NIH-CPSI) のみが独立した因子であることを明らかにしている。この結果は、前立腺の組織学的炎症反応は様々な症状と関連しているものの、唯一 NIH-CPSI を評価することで前立腺組織内に波及した炎症の程度が推測できる可能性を示唆している。前立腺組織の組織学的確認は前立腺癌の有無に関して施行されるものであり、基本的には侵襲的な検査であることから、前立腺組織の炎症所見と関連する NIH-CPSI による評価の重要性がさらに高まるものと考えられる。前立腺内の病理組織学的な炎症程度と、付随する症状を詳細に検討した臨床的に意義ある論文である。

よって、本論文は博士 (医学) の学位を授与するに値するものと判定した。